

旧大沢野町岩木新の音川層

神通川にかかるJR高山本線の鉄橋から下流200mの神通川右岸の川原に貝化石が露出している音川層群(約1000万年前?)の地層が見えます。ここの化石層は周辺よりも固結の強い層の中に化石が埋まっており、貝殻のカルシウム分が周囲の地層を固めたものと考えられます。築地書館発光の「日曜の地学6 北陸の自然をたずねて」によると、多く出てくる貝化石は、エゾタマキガイ、マツモリホタテガイ、エッチュウカガミガイ、アラスジサラガイ、クサビガタオオノガイなど、寒流の影響の強かった海に生息していた貝が化石になったものということです。なお、この地層の続きは神通川左岸側のJR高山本線の鉄橋から上流側のがけに露出していますが、この左岸側のがけは富山市の天然記念物に指定されていますので、化石の採取はできません。



化石含有層（ここまで近づくには長靴が必要です。）



河床に見られるポットホール



化石含有層（拡大）